

## 収蔵資料の紹介②

### ▷▷▷▷古代ザメの歯◁◁◁◁

古代ザメ（カルカロドン）の歯

学名：Carcharodon megalodon AGASSIZ

産地：大磯町西小磯血洗川河口（Hr-800）

発見年月日：1975年3月20日

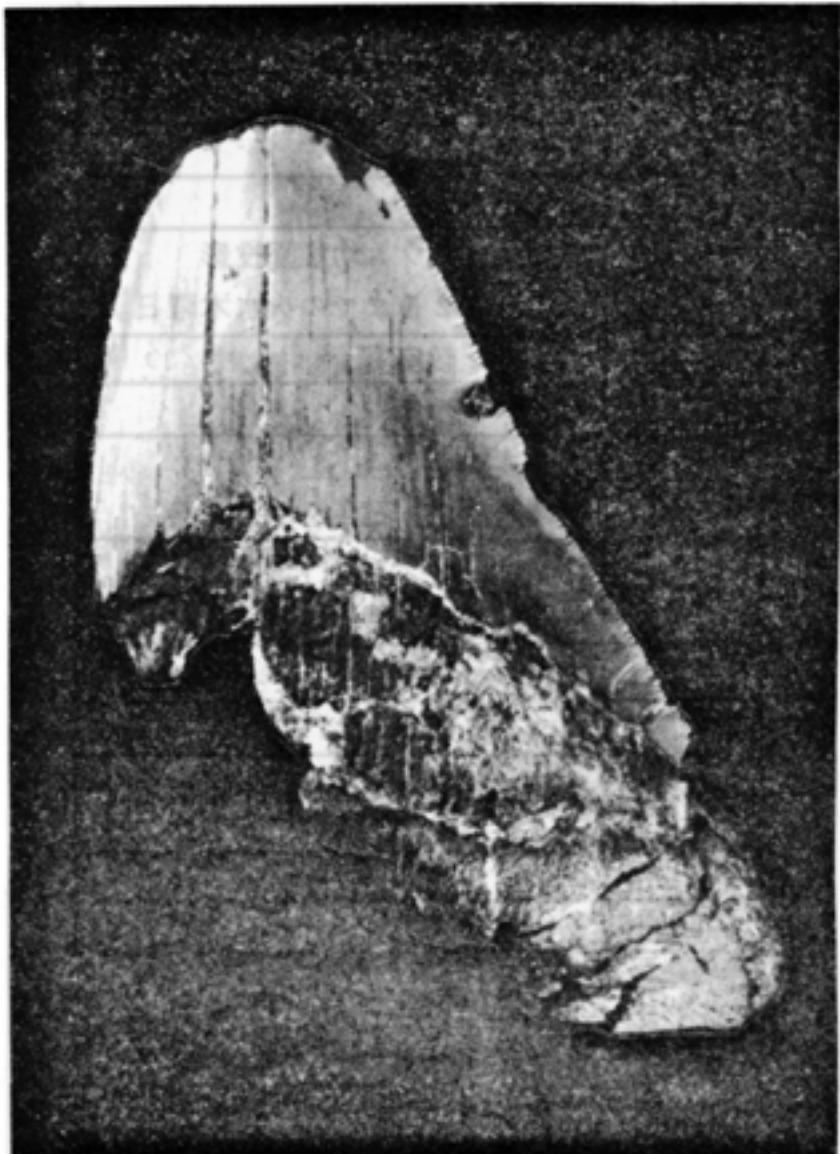
地層：大磯層 大磯砂岩泥岩互層中の貝化石疊  
岩

年代：後期中新世（約600万年前）

大磯町西小磯の海岸には、かつて西小磯層と名づけられた、貝化石を多量に含むレキ岩層が分布しています。この地層は砂岩泥岩互層と側方に移り変わっています。産出する貝化石は、バンダフミガイやシシュウタマキガイのような浅海・外洋性のところに生息するものと、オオツカツキガイなどのような内湾の砂泥底に生息するものとが混在しています。こうした点から、この地層は海底地すべりなどのような急激な水流により形成されたものと考えられています。

写真のサメの歯はこの貝化石層中より産したもので、サメの歯は俗に天狗の爪と呼ばれ、江戸時代から知られており、藤沢の遊行寺の寺宝にもなっています。サメの歯は頸の骨の上に何列にも並んで生えています。このカルカロドンはサメの中でも最も大きく、体長8m位で、口を開けると大人が立って通れる程といわれ、まさにジョーズのようです。この海岸からは、その他ホホジロザメなど数種のサメの歯も産出しています。

（学芸員 森慎一）



この資料は、ナウマン象の骨とともに夏期特別展で公開されます。

# 6月の行事

プラネタリウムからのお知らせ

1	金	
2	土	プラネタリウム、古文書講読会
3	日	プラネタリウム
4	月	(休館日)
5	火	(全館くんじょうのため休館)
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	↓
16	土	プラネタリウム、古文書講読会
17	日	プラネタリウム
18	月	(休館日)
19	火	プラネタリウム幼稚園投影
20	水	(7月12日までの火水木曜日)
21	木	デッサン教室
22	金	デッサン教室
23	土	プラネタリウム 土曜観察会、石仏を調べる会
24	日	プラネタリウム 地層観察会、緑の国勢調査
25	月	(休館日)
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	(休館日)



## ○幼稚園向け投影

博物館のプラネタリウムでは、6月19日から7月12日までの金曜日を除く平日に、幼稚園団体向けの投影を行います。現在、観覧予約を受け付け中です。詳しくは、博物館管理係までお問い合わせ下さい。

## ○夏休み中の団体予約を受け付けます

夏休み期間中(7月21日~8月30日)、毎週水・木・土曜日の第1回(午前11時開演)の投影の、団体予約を受け付けます。団体扱いとなるのは20名からで、その際の観覧料は一般の3割引になります。

問い合わせ、予約は、博物館管理係まで。(電話でも結構です。)

※なお上記以外の回の観覧券は当日発売ですが予約はできません。またその際は団体扱いなりません



## 6月5日~15日は休館します

博物館は、6月5日(火)~15日(金)の間、全館くんじょうのため休館いたします。くんじょうとは、薬剤を入れて館内の虫や菌を殺す作業です。期間中は立ち入りできませんのでご注意下さい。

# ★★行事案内★★

## ●サマーセミナー

夏休みに、小・中学生を対象に、2泊3日の自然観察と団体生活を体験する会を行います。

期間 8月21～23日(火～木)

場所 県立津久井青年の家

対象 小学校5年生～中学校3年生の男女

定員 40名(応募者多数の場合抽選)

参加費 1人6,500円(交通費、食費、宿泊費等を含む)

申し込み 参加希望の方は、60円切手同封の上、「サマーセミナー案内書希望」と書いて博物館まで申し込んで下さい。折り返し案内書を送付いたします。案内書は、博物館の受付でも配布しております。案内書をお読みの上、応募用紙に必要事項を記入して申し込んで下さい。

しめきり 7月10日(火)必着



## ●自然観察会「大山川を訪ねて」

モミの原生林や丹沢の岩石を観察します。

日時 7月8日(日)8時～17時(雨天中止)

コース 大山中腹 大山川二重滝付近

定員 30名

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・年令等を明記し、6月25日までに博物館へ。申し込み多数の場合は、抽選。

## ●土曜観察会「自然の新聞を作ろう」

参加希望を常時受け付けています。希望者は60円切手を同封のうえ、封書で申し込んで下さい。

7月の予定 14日 夏の雑木林(吉沢)

28日 ツバメのねぐら(田村)

## ●市民のアトリエ第6回水彩教室

静物をモチーフに、描写を主体にした彩色のデッサンを行います。

日時 7月24(火)～28日(土) 8月1(水)～3日(金) 10時～16時30分

対象 高校生以上一般成人

定員 30名

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・年令・電話番号等を明記し、6月30日までに博物館へ。多数の場合は抽選。

## ●夏期特別展 記念講演会

夏期特別展「神奈川の化石—よみがえったナウマン象—」の記念講演会を下記の通り行います。参加ご希望の方は往復はがきで博物館までお申し込み下さい。

日時 7月22日(日)13時～15時

テーマ 「神奈川の化石象」

講師 横浜国立大学教授 長谷川善和氏

場所 博物館講堂

申し込み 往復はがきに住所・氏名・年令等を明記し、7月15日までに博物館へ。

## ●自然観察入門講座

### 「水生生物を調べよう」

水生昆虫、淡水貝などの調査法を実習し、水の汚れとの関連を調べる。

日時 7月24(火)、25(水)、28日(土)の3日間 9時～16時

コース 花水川、秦野市春岳沢、博物館

定員 30名

申し込み 3日間とも参加できる方に限ります。往復はがきに住所・氏名・年令等を明記し、7月10日までに博物館へ。多数の場合は、抽選。

# 平塚の年中行事

## 6 植えあげと野上り

水ぬるむ季節となり、農家では田植えの準備が始まっています。田には水が入り、今月中旬になれば、稻の早苗が青々と伸び始めることと思います。現在は、田植えには動力田植機が使われる所以、5月中旬に田植機専用の箱に稻の種子がまかれ、約20日くらい後の6月初旬から中旬が田植えの盛時となっていますが、田植機が使われるようになる以前、水苗代といって水田に苗代をつくって苗を育て、手で1株1株植えていった時代は、田植は現在より半月程遅く、6月下旬から7月上旬に行われていました。5月の八十八夜の後に苗代に種子をまいたので、40日から50日間くらい育てた苗を植えていったわけです。

市内の各地区では田植えの開始と終りは特定の祭りや日が目安となっていました。田植えは6月21日、22日の国府祭（こうのまち、現在は5月4日、5日）の後に始めるところが多く、終りは7月2日の半夏生（はんげしょう、夏至から11日目のこと）や7月9日の真田の天王さん（現在の真田神社）の祭りが目安となっていました。たとえば金田地区、神田地区、岡崎地区等では、半夏生以後に田植えをすると、1穂について米が何粒か減るなどといって半夏生までに終えるように戒めました。また、真田の天王さんの祭りには農具やホウズキ等を売る市（いち）がたち、近在の人たちは祭りに出かけるのを楽しみにしており、これまでには田植えを終えるようにしたわけです。

このように特定の祭りや日を基準にして行われる田植えは、稻作の中では最も重要な仕事の一つでもあります。そのため田植えが終ると各家あるいは各ムラごとに田植え終了の儀礼やお祝いが行われています。今回の標題とした「植えあげ」というのは、各家ごとに田植え終了時の儀礼、

「野上り」というのはムラごとの田植え終いの祝いのことです。

田植えは、手植えの時代は1株ずつ植えていくので大変な手間がいり、しかも灌漑などの関係で短期間に終えなければならなかつたので、近所や親戚の家々とテーマガワリ、スケなどといつて、互いに助けあつたり、協同して行われていました。植えあげの日には、こうして手伝ってくれた人や協同して植えた人も家へ招いて、夕飯には赤飯（または小豆飯）やご馳走をそろえ、酒も出して振舞いました。さらにこれとは別に、稻の無事成育を願い、稻の苗を持ってきて家の中に祀られている神様に赤飯などと一緒に供えていました。苗は根をよく洗って3把にしたり、1把の根の方を三つに分け、荒神（こうじん）様に供えるというのが普通です。荒神様というのは、三宝荒神（さんぼうこうじん）のこと、竈（かまど）に祀られている神様です。

さて、各家の田植えが終るとムラ全体で日を決めて野上りとなります。ムラというのは平塚周辺では大字の範囲で、江戸時代に定められた「村」を指していますが、野上りはムラの全戸の田植えが終つてからとなります。期日はムラの代表が決め、前日にケップー（ホラ貝）を吹いたり、板木（ばんぎ）を叩いて知らせ、2日間あるいは3日間仕事を休み、ボタモチ、赤飯（または小豆飯）などをつくつたりします。野上りの日は仕事が休みとなるので若い者たちは太鼓を叩いたり、大きな石を持ちあげて力比べをしたり、町へ出かけて映画を見たり、あるいは野上りが真田の天王さんの祭りの日になると天王さんまで出かけていったりしました。

（学芸員・小川直之）